

No. 1684

“天女” 向井さんを顕彰

—— 官邸 ——

今年の7月、アメリカのスペースシャトル「コロンビア」に搭乗し宇宙実験を手がけた日本人女性初の宇宙飛行士向井千秋さんに「宇宙開発の推進に貢献し、女性や青少年に夢と希望を与えた」功績に対しての総理大臣顕彰受賞式が9月6日に首相官邸で行われました。女性が総理大臣顕彰を受けたのは87年のプロゴルファー岡本綾子さん以来、宇宙飛行士では1昨年の毛利さんに続くもの。村山首相から表彰状と副賞の盾を手渡されたあと向井さんから首相に「シャトル打ち上げ瞬間」の写真パネルが贈られました。向井さんはシャトルで実験した13ヶ国80種類の実験データをこれから1年かけてまとめたあと「日本人飛行士の養成をはじめとして、国際宇宙基地で働く飛行士の役に立ちたい」と話していました。

社党、新政策を承認

—— 臨時党大会 ——

自衛隊合憲など党の基本政策の転換を討論する社会党の第61回臨時党大会が9月3日東京永田町の党本部で開かれました。来賓の山岸連合会長が「社民リベラル勢力の結集を図るため民社党との関係を再構築すべきだ」と強調。社会党から連立内閣の閣僚に選出された5人の大臣が紹介されそれぞれに抱負を述べました。首相となった村山委員長はあいさつの中で「冷戦構造の崩壊の中でイデオロギー対立が終わり党の基本政策を変える必要が生じた」との見解を表明。「過渡的な内閣にとどまらず本格的で安定した政権をめざす」と述べました。久保書記長が自衛隊合憲、安保堅持、日の丸・君が代容認など「当面する政局に臨むわが党の基本姿勢」の議案について説明し新政策の承認を求めました。党本部前で新しい方針に反対する党員の座り込みが続く中会場では北海道から沖縄までのブロック別の代議員が討論を展開しました。路線変更に強く反対する広島、沖縄などから「護憲の党がなしくずしの改憲を唱えるのは社会党の死だ」と訴え、現実路線を支持する代議員との間で激論が交わされ矢面に立つ久保書記長も苦しい答弁が続きました。結局、政策の転換を村山連立政権だけに限定する地方組織が提出した修正案について投票が行われました。投票の結果、修正案賛成152票、反対222票で修正案は否決されました。執行部提出の基本政策が承認されたものの党の歴史的変身に対して大会で浮き彫りになった左右両派の亀裂の深まりが社会党の「団結」に影を落としそうです。